

DXで大切なのは… **タイミングを逃さない!** **ITの現状を正確に知る!**

# 今すぐやりましょう ITの精密検査

～デジタルトランスフォーメーション(DX)に向けたITシステムの検査～  
ちょうどよくまとめられた検査項目で、**健康状態が具体的に**わかります

あの時  
検査しておいて  
よかったなあ



## こんな症状ないですか？

### DX対応状況 簡単チェックシート

- ☐ データを、リアルタイム等使いたい形で使えるITシステムとなっていない。
- ☐ 環境変化に迅速に対応し、求められるデリバリースピードに対応できるITシステムとなっていない。
- ☐ IT資産の現状について、「全体像を把握し、分析・評価」できていない。
- ☐ 価値創出への貢献の少ないもの、利用されていないものについて、廃棄できていない。
- ☐ 「データやデジタル技術を活用し、変化に迅速に対応すべき領域を精査の上特定し、それに適したシステム環境を構築」できていない。
- ☐ 非競争領域について、「標準パッケージや業種ごとの共通プラットフォームを利用し、カスタマイズをやめて標準化したシステムに業務を合わせるなど、トップダウンで機能圧縮」できていない。
- ☐ ITシステムの刷新に向けたロードマップが策定できていない。

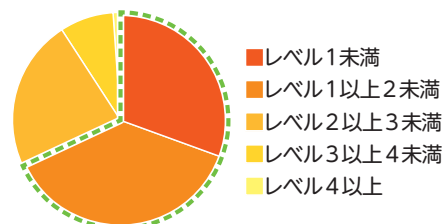
出典:経済産業省 「DX推進指標とそのガイダンス」のIT部分をもとに作成

これらに該当する場合は、**精密検査** が必要です

## DXに向けた企業の対応状況

企業のDXの対応状況は、「**全社戦略が明確ではなく散発的な実施にとどまっている**レベル2未満の企業が7割程度存在」しており、経営視点指標、IT視点指標のどちらにも共通しています。

成熟度レベルと企業数の割合



**レベル2未満が全体の約7割**

出典:「DX推進指標分析レポート(2020年度版)」をもとに作成

DXでどうしたらいいか迷っている  
情報システム部門のあなた、  
**まずITシステムの健康状態を知ることが重要です!**



## ITシステムの健康状態がわかる プラットフォームデジタル化指標

をおすすめします。

※「DX推進指標」でIT部分に問題があった場合に利用すると効果的です。

## プラットフォームデジタル化指標とは？

ITシステムが、DX対応に求められる要件を満たしているかを評価するための、IPAが作成・公開した指標です。

- いろんな視点で評価できます
- 公平・中立で偏りがありません
- 範囲を絞って適用できます

✓ DXについての詳細な評価により、ITシステムの**問題点**を**見える化**します。

✓ 対策が必要な箇所と、**優先順位決定のための情報**を明確にします。

➔現状を正しく知ること、適切な優先順位に従った対策の実施を促します。

### ● 例えば、こんなことがわかります ●

- ☐ 最新データをいつでも利用できるか。 **46項目**  
☐ 変化に素早く対応できるか。

データ活用性

利用品質

アジリティ(機敏さ)

開発品質

スピード

維持・保守のしやすさなど

- ☐ データ分析の仕組みは適切か。 **12項目**  
☐ AI活用の仕組みはあるか。

ITシステム間の独立性

データ活用の仕組み

運用の標準化

プロジェクトマネジメント

セキュリティ、プライバシー

デジタル人材など

- ☐ ITシステムの特徴をわかっているか。 **13項目**  
☐ リソース状況は適切か。

事業特性

保有リソース

影響度

IT開発の状況

システム特性

- ☐ 適切なITシステムに注力しているか。 **5項目**  
☐ 財務面の変化への対応力はどうか。

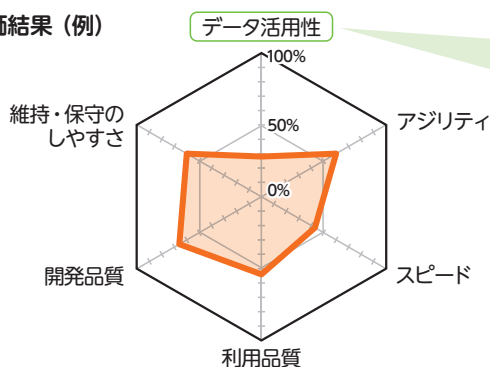
財務

事業上の重要性、顧客影響度などから、**優先順位**も決められます！

評価結果から、  
問題点が一目で  
わかります。



評価結果(例)



「データ活用性」は  
得点率が低いことから、  
何らかの対策が必要です。

プラットフォームデジタル化指標の説明資料、利用ガイドなど詳しくは、WEBサイトで。

[www.ipa.go.jp/ikc/our\\_activities/dx.html#section6](http://www.ipa.go.jp/ikc/our_activities/dx.html#section6)

2021年9月更新



本件に関するお問い合わせ先